

「オリンピック」

使用者委員 濱上剛一郎

東京オリンピックが終わり、今度はパラリンピックが始まります。1年延期となり特にパラリンピックの選手には影響が大きかったという声もありますが選手の皆さんが精一杯力を発揮してもらえるよう声援を送りたいと思います。このコロナ禍の中、オリンピック・パラリンピックの開催の是非が問われ、オリンピック開催中も感染者が増え続けたことは承知のうえで、やはりスポーツの持つ力は素晴らしいと思うとともに、勇気と感動をいっぱいもらえました。テレビを通しての観戦でしたが、日頃なじみの薄い競技にも見入ってしまい、特に日本選手の活躍には、手に汗にぎり、大声を出しながらの応援となりました。国別対抗という形式ですのでどうしても日本を応援しますが、勝っても負けてもすがすがしい思いをさせてくれるのはやはりスポーツの力だなと思いました。ところで娘が現在、オーストラリアのシドニーに住んでいますが、なぜか日本の次にオーストラリアの選手たちを応援している自分がいました。「縁ある人々の国を自国のように応援し、喜びを分かち合うのもスポーツのだいご味」と、ある新聞記事で読みましたが、なるほどと思うことでした。

個別の競技では、柔道は、日本のメダルラッシュもあって感動の連続でした。いったん試合が始まると、いつ技が決まるかわからないため、野球などと違って、目が離せません。その中でも鹿児島出身の濱田尚里さんの活躍は皆さんご承知のとおりです。30歳と遅咲きですが、特に寝技にこだわり、初戦から自分の道を行き、勝ち進んだ決勝でも見事な寝技一本を決めての金メダルでした。こだわりをもって自分の進むべき目標を寝技と定め、プラスになるからとサンボという別の格闘技にも挑戦したそうです。「倒されたら負け」と相手選手に思わせるほどになっていたということですから立派です。もちろんそこまでの道のりは我々凡人にはとてもまねできるようなことではありませんが見習いたいものです。また濱田選手の素晴らしいところはその人間性にもあります。勝った後、ガッツポーズをするわけでもなく、大声を出すわけでもなく、笑顔すら見せなかったように思いました。敗者に対していたわりの心で接したということのようで、素晴らしい振る舞いだと絶賛されていました。それだけに、畳を降りてから初めて笑顔をみせ、口数は少なかったですがインタビューでみせた涙はより感動的でした。

ボクシング女子で日本人で初めて金メダルを取った入江聖奈選手も印象に残りました。こちらは決勝で勝った瞬間何回も飛び跳ねて派手に優勝を喜びました。勝利インタビューでも口数多く、思ったことを素直にしゃべっていました。

ただ、報道によりますと、決勝戦の時の彼女はお辞儀や会釈を合わせて67回

したということで、素顔は非常に礼儀正しく、謙虚な女性だということです。確かに見えていても非常にさわやかな印象でした。

素直に感情を表現し、思ったことをはっきり言うにしても、感情を派手に出さず、言いたいことを控えるにしても、その立ち振る舞いがどのように見えるかは、その人の持つ人間性なのだろうと思います。

今更オリンピックに出られるような運動力を持つのは無理ですが、せめて人間力は磨き続けていかなくてはならないと学ぶことも多かったオリンピックでした。次はパラリンピックでどんな人間ドラマが見られるのか楽しみです。